

高齢出産での陣痛促進において効果のあった一症例

杏園堂鍼灸院

松原麻実 須藤隆昭

【目的】

高齢出産における陣痛促進を目的として鍼灸治療を継続的に実施したところ、初産婦にもかかわらず予定日前の出産となり、分娩時間や陣痛緩和についても良好な結果が得られた一例があったので報告する。

【症例】

39歳、女性。主訴；陣痛促進。現病歴；特になし。

妊娠32週目の検診の際に、医師から子が大きいため、母体への影響を考慮し、早めに出産した方が良いと告げられたとの相談があり、鍼灸治療での陣痛促進は可能であることをお伝えした。陣痛促進の治療開始時期については、医師と相談して決めることにした。37週目の検診の際に、子の大きさが3700グラムを超え、測定不能と告げられる。医師の同意を得て、陣痛促進の治療を開始した。方法：ステンレス製のディスポーザブル鍼を使用し、弁証論治に基づいた本治・標治法を行った後、三陰交・至陰・足三里等へ鍼と灸を用いて治療を実施した。刺鍼の深さは、1～3ミリ程度。治療間隔は、週に4回程度とした。毎回治療後には、おなかの張りが強くなることが実感できたという。

【結果】

治療開始から、7日目の検診で、子宮口2センチとなる。その晩も治療を行い、翌朝6時半、破水となった。午後13時の時点で子宮口3センチ。午後15時では、6センチであったが、助産師さんから陣痛が弱くお産が進んでいないとの報告を受け、医師の同意を得て、鍼灸治療を行ったところ、16時半には、子宮口開大となり、自然分娩に至った。

【考察・結語】

本症例は、陣痛促進の治療を開始してから、8日目で予定日より5日早く無事出産に至った。医師からは、母体の年齢や体力、子の大きさを考慮し、帝王切開での分娩の可能性が極めて高いと言われていた本症例であったが、鍼灸治療を継続的に行ったことと、陣痛室での治療を行ったことが、妊婦が望む自然分娩での出産をサポートできた一例であったと考える。以上のことから、鍼灸治療が陣痛促進に対して有効であると考えられる。